

Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86) 使用上の留意事項

まえがき

本書の目的

本書は PRIMERGY に Linux をインストール後、運用する際の留意事項について記載したものです。Linux をご使用の際には必ずご覧くださいますようお願い申し上げます。

本書の読者

本書は PRIMERGY を運用される方を対象に書かれています。

本書の構成

本書の構成は以下の通りです。

第 1 章 運用時の留意事項

インストール後の留意事項について記載されておりますので、運用する場合は、必ず参照してください。

第 2 章 周辺装置・オプションカード増設について

インストール後、周辺装置、カードを増設する場合の手順、留意事項について記載しておりますので、必要に応じて参照してください。

第 3 章 PRIMERGY RX800 をご使用の場合について

PRIMERGY RX800 で必要な設定について記載しておりますので、参照してください。

第 4 章 その他

その他機能および制限値などの留意事項について記載しておりますので、参照してください。

添付資料 Global Array Manager-Client のインストール手順概要

Global Array Manager-Client のインストールを実施する場合の作業手順を記載しております。必要に応じて参照してください。

動作状況

本書に記載されている内容は、弊社にて整合性を確認したのですが、予告なしに変更される場合もございますので、あらかじめご了承ください。

サポート&サービスについて

弊社では、お客さまに安心して Linux をご使用していただくために、**有償サポート・サービス (SupportDesk Product 基本サービス)**をご用意しております。ご契約いただきましたお客さまには、本書に関するご質問、インストールや運用の際に発生する疑問やトラブルなどについても解決支援させていただいておりますので、是非ご検討ください。

著作権

All Rights Reserved, Copyright (C) 富士通株式会社 2005

1. 運用時の留意事項

1.1 デバイス名の割り当てについて

Linux はハードディスクドライブ等の各種デバイスに対して、システム起動時に認識した順にデバイス名を割り当てます。このため、ハードディスクドライブやコントローラー等の故障発生後にシステムを再起動すると、当該ハードディスクドライブが認識できないために、デバイス名が変わることがあります。

例) SCSI ID=1, 2, 3 におのおのハードディスクドライブが接続されている場合、デバイス名はおのおの /dev/sda, /dev/sdb, /dev/sdc が割り当てられます。この状態で /dev/sdb が故障すると、再起動後には /dev/sdc が繰り上がり、/dev/sdb と認識されます。

デバイス名の思わぬ変更により、システムが起動できなくなることや、最悪の場合には、お客様のデータが破壊される恐れがあります。デバイスの故障検出時には、再起動を行う前に、レスキューモードで起動してハード故障の有無を確認することをお勧めします()。その後、ハード故障を修復し、バックアップテープ等からシステムを復元した上でシステムを再起動してください。

インストール CD1/4 を利用して、レスキューモードで起動します。
“1.4 レスキューモードを使用したシステムの起動方法”を参照

起動後、fdisk コマンドにて当該ハードディスクドライブが認識できるか否かを確認し、
/var/log/messages 内のハードエラーメッセージの確認等を行って実施してください。

1.2 Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86) のパッケージインストールについて

Red Hat Enterprise Linux は使用目的に応じて最適なシステムを構築するため、インストールタイプが用意されています。このため、お客様の必要とするパッケージがインストールされていない場合があります。必要とするパッケージがインストールされていない場合、root にてログインし、以下の手順でインストールしてください。

ドライバキットに含まれているインストール手順書で作成したインストール CD(1/4 ~ 4/4)を使用して、必要なパッケージをインストールします。

```
# mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/RedHat/RPMS
# rpm -ivh <package_file>
```

例) make のパッケージをインストールする場合

```
# rpm -ivh make-3.79.1-17.i386.rpm
# cd /
# umount /mnt/cdrom
# eject
```

CD を取り出してください。

1.3 Global Array Manager(以降 GAM)のインストールおよび設定方法

SCSI-RAID カード(PG-142E3)が搭載されている構成でシステムを使用する場合、RAID 管理ツールとして Global Array Manager を使用してください。

GAM-Client(Windows)のインストール方法については、“添付資料 Global Array Manager-Client のインストール手順概要”を参照してください。

GAM-Server(Linux)のインストール手順は、以下を実施してください。

[注意事項]

- 1) インストール時および、GAM のサービス起動時に画面表示が乱れる場合がありますが、動作上問題はありません。
- 2) GAM のサービスでは、以下のポート番号を使用しています。
ファイアウォールを設定される場合はご注意ください。

ポート番号：157,158

- (1) GAM-Server(Linux)をインストールする場合は、ドライバ CD を CD-ROM ドライブに挿入した後、以下の操作を実施します。

```
# mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
# cd /mnt/cdrom/UTY/GAM/Linux
# rpm -ivh gam-server-6.02-18.i386.rpm
# rpm -ivh gam-agent-6.02-18.i386.rpm
# cd /
# umount /mnt/cdrom
# eject
```

CD を取り出してください。

- (2) Linux のユーザーアカウントとして、GAM の管理者権限用の「gamroot」というユーザーアカウントとユーザー権限用の任意のユーザーアカウント(例: gamuser)を作成します。
(既にユーザー用の任意のアカウントが作成されている場合は、作成する必要はありません。)

```
# adduser gamroot
# passwd gamroot
```

Changing password for user gamroot

New-password パスワードを入力します。

Retype new password 確認のため上記で指定したパスワードを再度入力します。

passwd: all authentication tokens updated successfully

ユーザー権限用の任意のユーザーアカウントも上記と同じように実施します。

- (3) /etc/sysconfig/gam ファイルの以下に示す 3 行の編集を行います。
本編集により、各イベントが GAM-Client に通知されるようになります。

```
# vi /etc/sysconfig/gam
```

[編集前]

```
START_GAMEEVENT=n  
GAMEVENT_OPTIONS=""
```

[編集後]

```
START_GAMEEVENT=y      “n”を“y”に変更します。  
GAMEVENT_OPTIONS="-h IP アドレス"  GAM-Client がインストールされている管理  
                                     用 Windows システムの IP アドレスを設定  
                                     します。
```

[編集前]

```
START_GAMEVLOG=n
```

[編集後]

```
START_GAMEVLOG=y      “n”を“y”に変更します。
```

- (4) /etc/init.d/gam ファイルの編集をします。
ファイルの先頭付近にある chkconfig の設定を下記のように編集してください。

```
# vi /etc/init.d/gam
```

[編集前]

```
# chkconfig: 2345 40 60
```

[編集後]

```
# chkconfig: 2345 99 60      "40"を"99"に変更します。
```

- (5) /etc/init.d/gam ファイルで編集した内容を反映させます。
以下のコマンドを実行してください。
(GAM Server サービスを一旦削除し、再び追加します。)

```
# chkconfig --del gam  
# chkconfig --add gam
```

- (6) システムを再起動します。
shutdown -r now

システム起動後に以下のメッセージが表示されることがありますが、
動作上問題はありません。

[メッセージ]

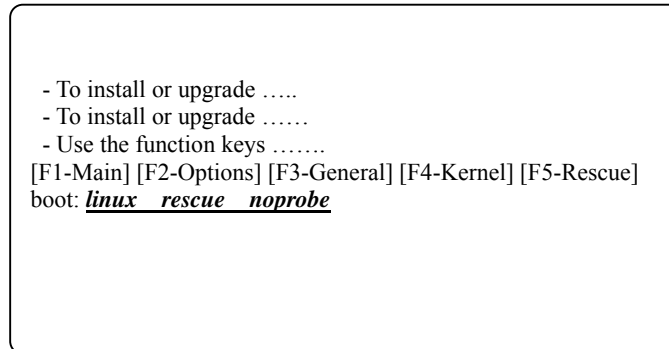
```
gamagent: gamagent: Connection refused  
gamagent connect failure
```

1.4 レスキューモードを使用したシステムの起動方法

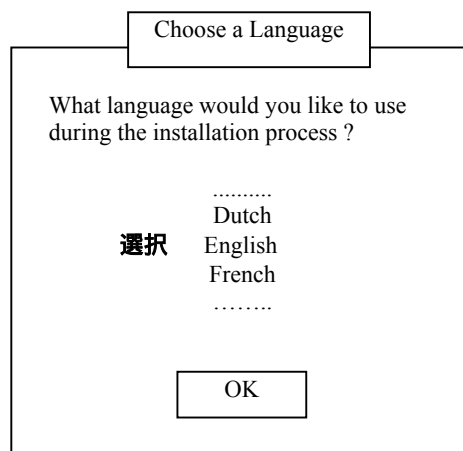
ドライバキットに含まれているインストール手順書で作成したインストール CD をレスキューモードで起動することにより、CD だけでシステムを起動する事ができます。これを利用することにより、トラブルが発生して起動しなくなったシステムを復旧できる可能性があります。以降では、最低限の使用方法であるシステム起動についてのみを説明します。以下に、レスキューモードを使用したシステムの起動方法を示します。

- (1) ドライバキットに含まれているインストール手順書で作成したインストール CD1/4 から起動し、以下の画面にて入力を行い[Enter]キーを押下します。

boot: linux rescue noprobe



- (2) Choose a Language 画面にて、「English」を選択し、「OK」を選択します。



- (3) Keyboard Type 画面にて、「jp106」を選択し、「OK」を選択します。
フラットディスプレイ(PG-R1DP3)などの付属キーボードを使用する場合には、
ここで「us」を選択してください。

Keyboard Type

What type of keyboard do you have ?

.....
it2
選択 jp106
la-latin1
.....

OK Back

- (4) 以下の画面にて、「Yes」を選択します。

Warning

No hard drives have been found.
You probably need to manually
choose device drivers for the
installation to succeed. Would
you like to select drivers now ?

Yes No

- (5) 以下の画面にて、「Add Device」を選択します。

Devices

No device drivers have been loaded for your
system. Would you like to load any now ?

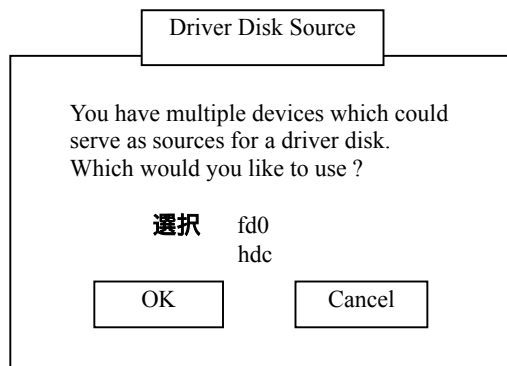
Done Add Device

(6) ドライバ一覧が表示された画面にて、以下のドライバを選択し「OK」を選択します。

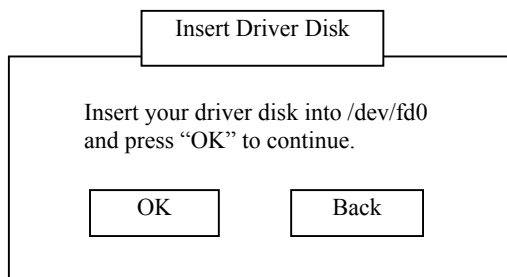
[TX600 オンボード SCSI の場合]

[F2]キーを押下します。

(a) 以下の画面にて、「fd0」を選択し、「OK」を選択します。



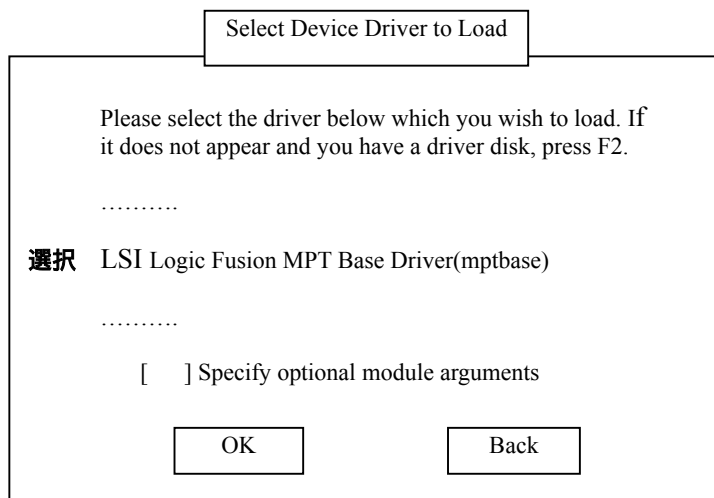
(b) フロッピーディスク挿入指示画面が表示されるので、「[ドライバキット](#)」に含まれるインストール手順書の“2.1.3 ドライバディスクの作成”で作成したドライバディスクを挿入し、「OK」を選択します。



(c) 以下のドライバを選択します。

「Adaptec AIC79xx Ultra320 SCSI adapter (aic79xx)」

以下に、オンボード SCSI の場合の例を示します。



[RX800 オンボード SCSI の場合]

「LSI Logic Fusion MPT Base Driver (mptbase)」

「LSI Logic Fusion MPT SCSI Driver (mptscsih)」

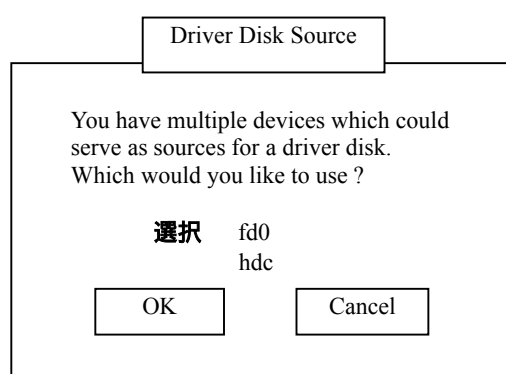
ふたつのドライバを選択する必要があります。以下の手順でドライバの選択を実施してください。

1. 以下のドライバを選択し「OK」を選択します。
「LSI Logic Fusion MPT Base Driver (mptbase)」
2. Device 選択画面が表示されるので「AddDevice」を選択します。
3. ドライバ一覧が表示されるので、以下のドライバを選択し「OK」を選択します。
「LSI Logic Fusion MPT SCSI Driver (mptscsih)」

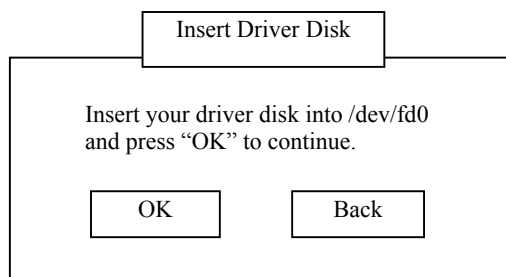
[TX600 / RX800 SCSI-RAID(PG-142E3) の場合]

[F2]キーを押下します。

- (a) 以下の画面にて、「fd0」を選択し、「OK」を選択します。

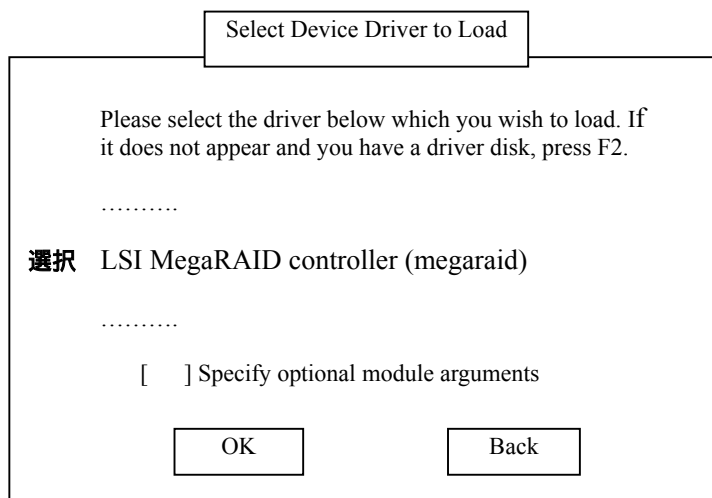


- (b) フロッピーディスク挿入指示画面が表示されるので、「[ドライバキット](#)」に含まれるインストール手順書の“2.1.3 ドライバディスクの作成”で作成したドライバディスクを挿入し、「OK」を選択します。

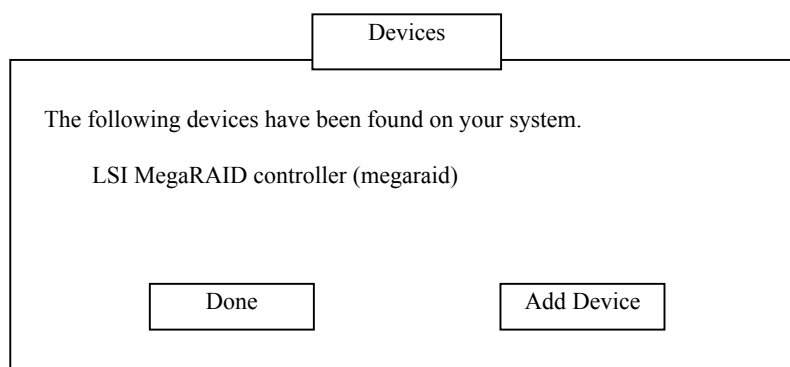


- (c) 以下のドライバを選択します。
「LSI MegaRAID controller (megaraid)」

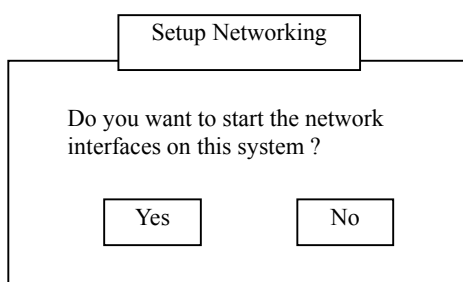
以下に、SCSI-RAID(PG-142E3)の場合の例を示します。



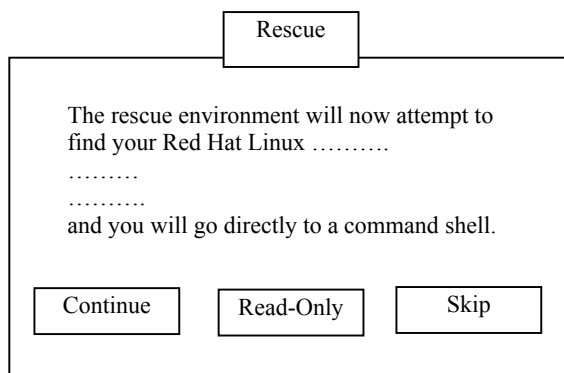
- (7) 以下の画面にて、選択したドライバが表示されていることを確認し、「Done」を選択します。



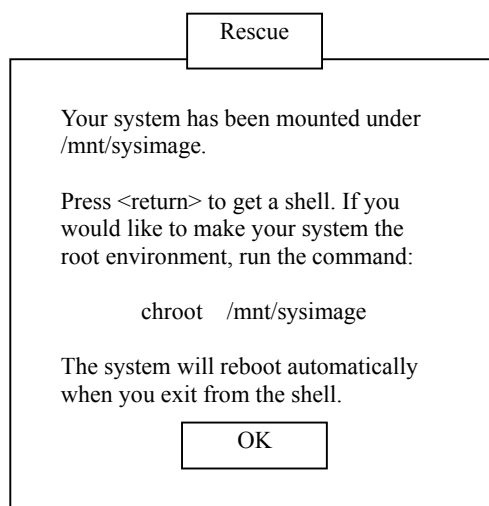
- (8) Setup Networking 画面が表示されますが、ネットワークの設定は行わないため、「No」を選択してください。



(9) Rescue 画面にて、「Continue」を選択します。



(10) 既存の Linux システムのルートパーティション(/)が、/mnt/sysimage にマウントできた場合、その結果が Rescue 画面にて表示されるので、「OK」を選択します。



(11) プロンプトが表示されたら、chroot コマンドにて、ルートパスをハードディスクドライブに変更します。

```
sh-2.05b# chroot /mnt/sysimage
```

(12) 以上で、レスキューモードでの起動が完了します。なお、レスキューモードを終了するには、exit コマンドを 2 回実行してください。

```
sh-2.05b# exit          chroot 環境から抜ける  
sh-2.05b# exit          レスキューモードから抜ける
```

1.5 シャットダウン時の電源切断について

シャットダウン時自動的に電源が切断されません。

コンソール画面に[Power down.]と表示されてから、電源スイッチを押して電源を切断してください。

なお、ServerView をインストールした環境でのシャットダウン時は、自動的に電源が切断されます。

2. 周辺装置・オプションカード増設時について

2.1 SCSI ディスクの増設について

LUN 数のデフォルト値は 1 に設定されています。SCSI ディスクや共有ディスク、テープライブラリ装置等を増設する場合、root にてログインした後、以下の手順で LUN 数を定義する必要があります。次のシステム起動から複数 LUN 参照が有効になります。

- (1) /etc/modules.conf に以下の行を追加します。

```
alias scsi_hostadapter aic7xxx
options scsi_mod max_scsi_luns=N ←追加
    N は LUN 数です。適切な数字を定義してください。
```

- (2) mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。

ご使用のカーネルに合わせて、mkinitrd コマンドにより initrd を作成してください。

ご使用のカーネルを確認する場合は、以下のコマンドを実施してください。

```
# uname -r
```

[2.4.21-20.EL (シングル CPU 向けのカーネル)]

```
# cp /boot/initrd-2.4.21-20.EL.img /boot/initrd-2.4.21-20.EL.img.bak
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.21-20.EL.img 2.4.21-20.EL
```

[2.4.21-20.ELsmp (マルチ CPU 向けのカーネル)]

```
# cp /boot/initrd-2.4.21-20.ELsmp.img /boot/initrd-2.4.21-20.ELsmp.img.bak
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.21-20.ELsmp.img 2.4.21-20.ELsmp
```

- (3) システムを再起動します。

以下の手順にて、システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

2.2 オプションカードの増設について

システムをインストールした後に下表のオプションカードを増設した場合、システム起動時に kudzu が自動起動されますので、ファイバチャネルカードを増設している場合は以下の操作を実施してください。ファイバチャネルカード以外の場合は「configure」を選択してください。また、LAN カードを増設した場合には、画面の表示に従ってネットワークの設定を実施してください。

システム起動後に root にてログインし、“2.3 mkinitrd の実施”を実施してください。次のシステム起動時から、増設したカードが自動的に認識されるようになります。

		TX600	RX800
SCSI カード	PG-128		
SCSI-RAID カード	PG-142E3		
LAN カード	PG-1862		
	PG-1881		
ファイバチャネルカード	PG-FC106		

[ファイバチャネルカード(PG-FC106)を増設した場合]

- (1) システムをインストールした後にファイバチャネルカードを増設した場合、システム起動時に kudzu が自動起動されますので、すべて「Ignore」を選択してください。
- (2) /etc/modules.conf を以下のように追加します。
システムに SCSI および SCSI-RAID などのデバイスが実装されている場合は
“scsi_hostadapter”の最後に「2, 3, ...」と数字が付きます。

[追加内容]

```
alias scsi_hostadapter2 lpfcdd          追加
options scsi_mod max_scsi_luns=128     追加
```

2.3 mkinitrd の実施

- (1) mkinitrd コマンドにより initrd を作成します。
使用しているカーネルに合わせて、mkinitrd コマンドにより initrd を作成してください。
使用しているカーネルを確認する場合は、以下のコマンドを実施してください。

```
# uname -r
```

以下に、コマンドの実行例を示します。

[2.4.21-20.EL (シングル CPU 向けのカーネル)]

```
# cp /boot/initrd-2.4.21-20.EL.img /boot/initrd-2.4.21-20.EL.img.bak
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.21-20.EL.img 2.4.21-20.EL
```

[2.4.21-20.ELsmp (マルチ CPU 向けのカーネル)]

```
# cp /boot/initrd-2.4.21-20.ELsmp.img /boot/initrd-2.4.21-20.ELsmp.img.bak
# mkinitrd -f /boot/initrd-2.4.21-20.ELsmp.img 2.4.21-20.ELsmp
```

2.4 システムを再起動します。

以下の手順にて、システムを再起動します。

```
# shutdown -r now
```

3. PRIMERGY RX800 をご使用の場合について

3.1 PRIMERGY RX800 において SCSI-RAID カード(PG-142E3)を搭載している場合

PRIMERGY RX800 において SCSI-RAID カード(PG-142E3)を搭載している場合、以下の手順に従って BIOS の設定を行ってください。

- (1) 起動画面より[F1]キーを押下し、BIOS 設定画面に入ります。
- (2) メインメニューより、Advanced Setup を選択します。
- (3) Advanced Setup 画面にて PCI Slot/Device Information を選択します。
- (4) PCI Slot/Device Information 画面にて SCSI-RAID カード(PG-142E3)を搭載している Slot (Slot 6) を選択します。
- (5) PCI Device Information 画面に移りますので、IRQ New Value Select の値を以下のように変更します。

SCSI-RAID カード(PG-142E3)の場合 : IRQ 3

- (6) [Esc]キーを押下し、設定を保存して BIOS の設定を終了してください。

3.2 PRIMERGY RX800(型名：PGR8018AA)をご使用の場合について

ディスプレイドライバに VESA ドライバを使用する必要があります。VESA ドライバを使用しない場合、X-Window を起動しても解像度 1024x768 で表示することができなくなりますのでご注意ください。

ただし、VESA モード時に kon を起動すると画面が真っ暗になり、操作不能になります。間違えて起動した場合は「Ctrl+d」で kon を exit してください。日本語を入力したい場合は、X-Windows 上で行ってください。

具体的な設定方法は次に示す通りです。

1) /boot/grub/grub.conf の編集

/boot/grub/grub.conf のカーネルのコマンドラインに「vga=番号」を設定します。

編集内容は、以下のとおりです。

[編集前]

```
default=0
timeout=10
splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz
password --md5 $1$Wcyyp6lC$aXyY.lwjgKkcnhJFIJ7VS1
title Red Hat Enterprise Linux AS (2.4.21-20.ELsmp)
    root (hd0,0)
    kernel /vmlinuz-2.4.21-20.ELsmp ro root=LABEL=/
    initrd /initrd-2.4.21-20.ELsmp.img
title Red Hat Enterprise Linux AS-up (2.4.21-20.EL)
    root (hd0,0)
    kernel /vmlinuz-2.4.21-20.EL ro root=LABEL=/
    initrd /initrd-2.4.21-20.EL.img
```

[編集後]

```
default=0
timeout=10
splashimage=(hd0,0)/grub/splash.xpm.gz
password --md5 $1$Wcyyp6lC$aXyY.lwjgKkcnhJFIJ7VS1
title Red Hat Enterprise Linux AS (2.4.21-20.ELsmp)
    root (hd0,0)
    kernel /vmlinuz-2.4.21-20.ELsmp ro root=LABEL=/ vga=791 下線部を追加
    initrd /initrd-2.4.21-20.ELsmp.img
title Red Hat Enterprise Linux AS-up (2.4.21-20.EL)
    root (hd0,0)
    kernel /vmlinuz-2.4.21-20.EL ro root=LABEL=/
    initrd /initrd-2.4.21-20.EL.img
```

: vga=791 は、解像度 1024 × 768 色 6 万 5000 色 の設定値です。

2) /etc/X11/XF86Config ファイルの編集

/etc/X11/XF86Config ファイルに「Driver "vesa"」を設定します。

編集内容は、以下のとおりです。

[編集前]

```
Section "Device"
    Identifier "Videocard0"
    Driver "radeon"
    "Videocard vendor"
    BoardName "ATI Radeon 7000"
EndSection
```

[編集後]

```
Section "Device"
    Identifier "Videocard0"
    Driver "vesa"                "vesa"に変更
    "Videocard vendor"
    BoardName "ATI Radeon 7000"
EndSection
```

4.その他

4.1 サウンド機能について

サウンド機能はサポートしていません。

4.2 PCI ホットプラグ機能について

PCI ホットプラグ機能はサポートしていません。

4.3 使用できるカーネルについて

ハード条件により、使用できるカーネルが決まります。

使用できるカーネルについては、下表を参考にしてください。

ただし、ミドルウェア仕様により選択するカーネルの指定がされている場合があります。

ミドルウェアの仕様書に従ってカーネルを選択してください。

ハード条件		選択カーネル
搭載メモリ	論理 CPU 数()	
~ 4GB	1CPU	シングル CPU 向けのカーネル
	2CPU ~	マルチ CPU 向けのカーネル
4GB 超 ~	条件なし	マルチ CPU 向けのカーネル

実搭載 CPU 数が 1 個でも、Hyper Threading = Enabled の場合は、論理 CPU 数は 2 個となります。

4.4 ディストリビューションの制限値について

以下に示す CPU/メモリ/ファイルシステムの制限値を超えた場合、動作は保証できません。

最大論理 CPU 数	16 個
最大メモリ容量	64 GB ()
ファイルシステム	1 TB 未満

機種毎の最大メモリ容量を示します。

	TX600	RX800
最大メモリ容量	12 GB	12GB

4.5 インストール手順について

Red Hat Enterprise Linux AS (v.3 for x86)インストール手順については、ダウンロード検索よりダウンロードした「[ドライバキット](#)」に含まれているインストール手順書をご参照ください。

- 以上 -

添付資料 Global Array Manager-Client のインストール手順概要

この作業は、SCSI-RAID カード(PG-142E3)を搭載している場合のみ実施してください。GAM-Client は Microsoft Windows2000/2003 上で動作します。管理用 Windows システムを用意してください。

1. ドライバ CD を管理用 Windows システムの CD-ROM ドライブにセットしてください。
2. ドライバ CD 内の“UTY¥GAM¥Windows”内にある setup.exe を実行してください。
3. 「Welcome」ウィンドウが表示されたら、「Next」をクリックしてください。
4. 「Software License Agreement」画面が表示されるので、内容をお読みいただき同意される場合は、「Yes」をクリックしてください。
5. 「Select Components」ウィンドウ (図 1) が表示されます。「Global Array Manager Client」の横にあるボックスがチェックされていることを確認してください。また、「Global Array Manager Server」および「SANArray Manager Client」のチェックは外してください。

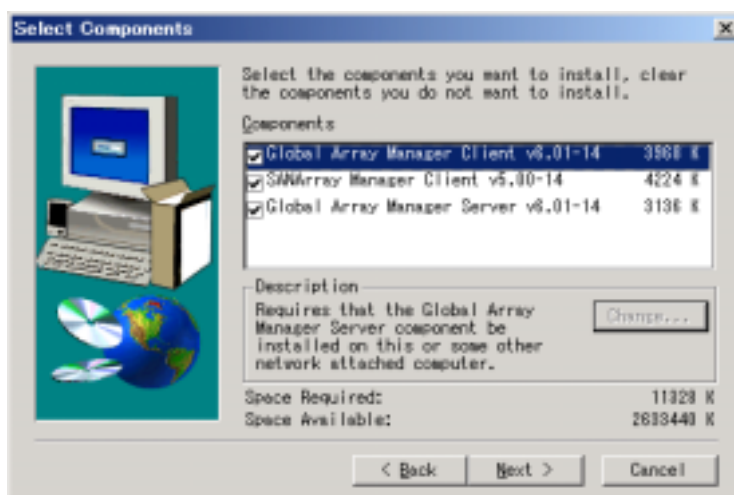


図 1

「SANArray Manager Client」は未サポートです。インストールは行わないでください。

6. 「Choose Destination Location」ウィンドウが表示されます。「Browse」をクリックし任意のインストール先を指定して、「Next」をクリックしてください。

GAM-Client が既にインストールされている場合には、上書きを確認するメッセージが表示されます。「OK」をクリックして続行してください。

7. GAM-Client のインストール先が表示されます。「Next」をクリックしファイルのコピーを開始します。
8. 「Setup Complete」画面が表示されます。「Finish」をクリックして GAM のインストーレーションウィザードを終了します。

- 以上 -